

カリキュラム・マップ

経済学部	経済学部の教育目的
幅広い視野と柔軟な頭脳をもって、変動する経済社会に対応できる、自立的な思考能力をもった人材を社会に送り出す。	

学修成果
「学士（経済学）」を授与される学生は、以下のような能力を有する。 ① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。（「2. 専門性」、「8. 国際性」と関連） ② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。（「2. 専門性」と関連） ③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。（「9. 社会的実践力」と関連） ④ 経済・経済政策・会計に関するデータ分析・情報処理を行うことができる。（「6.表現力」と関連） ⑤ 自らのキャリアを設計することができる。（「3. 自己を理解し発展させる力」、「4. キャリア展望を確立する力」と関連）

※（ ）内は「立教大学学士課程教育の学位授与方針」に定める学修成果項目との関連を記載。

経済学部会計ファイナンス学科のカリキュラム					経済学部の学修成果との関連 （◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連）				
科目名	科目区分	主要授業科目	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関するデータ分析・情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
簿記1	必修科目	○	1	基本的な簿記の仕組み・役割を理解し、活用できる。				◎	
簿記2	必修科目	○	1	基本的な簿記の仕組み・役割を理解し、活用できる。				◎	
会計学1	必修科目	○	2	企業会計の計算構造を理解し、企業の決算書を読むことができる。	○	○	◎		
会計学2	必修科目	○	2	企業会計の計算構造を理解し、企業の決算書を読むことができる。	○	○	◎		
社会経済学入門	必修科目	○	1	社会経済学の基礎概念と理論及び歴史的背景についてバランスよく習得し、現代の経済問題に関する議論に参加しうる経済学的視点を養う。	◎	◎	◎	△	
ミクロ・マクロ経済学入門	必修科目	○	1	ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎理論を中心に、経済学の基本的な考え方を学ぶ。それを通じて様々な経済問題に対して、自分なりの意見を持てるようになる。	◎	◎	◎	△	
基礎ゼミナール1	共通選択科目1		1	大学における学習に円滑に適応できるように、アカデミック・スキルズの基本と方法を身につけることができる。			◎	◎	○
基礎ゼミナール2	共通選択科目1		1	アカデミック・スキルズの基本を踏まえてレポートを作成し、2年次以降の専門ゼミナールでの学習に向けた準備をすることができる。			◎	◎	○
データ分析入門1	共通選択科目1		1～4 （1年次推奨）	パソコンを活用して、文書作成とデータ処理ができる。				◎	
データ分析入門2	共通選択科目1		1～4 （1年次推奨）	経済データ、財務データ、会計データを使った応用分析ができる。				◎	
統計学1	共通選択科目1		1～4 （1年次推奨）	「記述統計」の内容を理解し、現実分析ができる。	○		△	◎	
統計学2	共通選択科目1		1～4 （1年次推奨）	推測統計学を活用できる。	○		△	◎	
経済数学入門	共通選択科目1		1～4 （1年次推奨）	経済学・経営学で最低限必要とされる数学を活用できるようになる。				◎	
外書講読・英A	共通選択科目1		2～4 （2,3年次推奨）	経済に関する英語文献を読むことができる。	◎				
外書講読・英B	共通選択科目1		2～4 （2,3年次推奨）	経済に関する英語文献を読むことができる。	◎				

経済学部会計ファイナンス学科のカリキュラム					経済学部 の学修成果との関連 (◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連)				
科目名	科目区分	主要授業科目	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関するデータ分析・情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
経営学1	共通選択科目1		1～4 (1年次推奨)	社会と企業 の関係を中心に、企業 の経営を理解し、実践するための知識を習得し、自分の意見を説明できるようになる。	○	○	◎		
経営学2	共通選択科目1		1～4 (1年次推奨)	企業と個人 の関係を中心に理論を理解し、自分の意見を説明できるようになる。	○	○	◎		
社会経済学1	共通選択科目1		2～4 (2年次推奨)	資本主義という経済体制の生成、構造および発展を理解し、説明することができる。	○	◎			
社会経済学2	共通選択科目1		2～4 (2年次推奨)	資本主義という経済体制の生成、構造および発展を理解し、説明することができる。	○	◎			
初級ミクロ経済学1	共通選択科目1		2～4 (2年次推奨)	標準的なミクロ経済学の基本的概念・考え方・分析手法を修得することによって、より上級の理論や、より専門的な分野の学習のための土台をつくる。	○	◎	◎	○	
初級マクロ経済学1	共通選択科目1		2～4 (2年次推奨)	標準的なマクロ経済学の基本的概念・考え方・分析手法を修得することによって、より上級の理論や、より専門的な分野の学習のための土台をつくる。	○	◎	◎	○	
中級簿記1	共通選択科目2		2～4 (2年次推奨)	「簿記」に引き続き、基礎的な取引の記帳について、商業簿記2級以上の知識を習得し、活用できるようになる。				◎	
中級簿記2	共通選択科目2		2～4 (2年次推奨)	中級簿記1に引き続き、商業簿記の2級以上の論点について理解し、活用できるようになる。				◎	
ファイナンス基礎	共通選択科目2		1～4 (1年次推奨)	ファイナンスなど経営に関連した科目を履修する準備として企業経営の全体像を大づかみに理解し、自ら考えることができるようになる。	○	○	◎		
経営分析論1	共通選択科目2		2～4 (2年次推奨)	経営分析の考え方と分析指標について理解し、活用できるようになる。	○	○	◎		
経営分析論2	共通選択科目2		2～4 (2年次推奨)	企業価値の評価に用いられる分析手法を理解し、活用できるようになる。	○	○	◎		
金融論1	共通選択科目2		2～4 (2年次推奨)	金融の仕組みや金融現象の解明を通して、現代経済の構造や動向を理解し、自分の意見を説明できるようになる。	○	○	◎		
金融論2	共通選択科目2		2～4 (2年次推奨)	金融の仕組みや金融現象の解明を通して、現代経済の構造や動向を理解し、自分の意見を説明できるようになる。	○	○	◎		
景気変動論1	共通選択科目2		3～4 (3年次推奨)	前期では、景気変動を学ぶ基礎としてマクロ経済学を復習し、その上で、なぜ経済は変動するのかについて、基本的な仕組みを理解し、説明できるようになる。	○	◎			
景気変動論2	共通選択科目2		3～4 (3年次推奨)	景気変動の理論を「循環」と「成長」を中心に理解し、最近の成果である貨幣・金融の影響を理解し、説明できるようになる。	○	◎			
初級ミクロ経済学2	共通選択科目2		2～4 (2年次推奨)	入門的なミクロ経済学に関する知識を前提として、ミクロ経済学の初～中級レベルの内容を理解することができる。	○	◎	◎		
初級マクロ経済学2	共通選択科目2		2～4 (2年次推奨)	入門的なマクロ経済学に関する知識を前提として、ミクロ経済学の初～中級レベルの内容を理解することができる。	○	◎	◎		
データ分析演習A	共通選択科目2		2～4 (2年次推奨)	会計、金融、経営に関するデータを入手、分析し、分析結果のプレゼンテーションができる。				◎	
データ分析演習B	共通選択科目2		2～4 (2年次推奨)	会計、金融、経営に関するデータを入手、分析し、分析結果のプレゼンテーションができる。				◎	
Short-term Study Abroad Program in Economics(USA)	共通選択科目2		2～4	各国経済や経済学を英語で理解できるようになるとともに、海外で英語で授業を受けることによって、英語でプレゼンテーションやディスカッションができるようになる。	◎				○
Short-term Study Abroad Program in Economics(UK)	共通選択科目2		1～3	各国経済や経済学を英語で理解できるようになるとともに、海外で英語で授業を受けることによって、英語でプレゼンテーションやディスカッションができるようになる。	◎				○

経済学部会計ファイナンス学科のカリキュラム					経済学部の学修成果との関連 (◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連)				
科目名	科目区分	主要授業科目	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関するデータ分析・情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
Short-term Study Abroad Program in Economics(CAN)	共通選択科目2		2～4	海外の経済と文化を理解するとともに、国際的な場で活躍するために必要なスキルを身につける。	◎	◎			○
Short-term Study Abroad Program in Economics(AUS)	共通選択科目2		1～3	各国経済や経済学を英語で理解できるようになるとともに、海外で英語で授業を受けることによって、英語でプレゼンテーションやディスカッションができるようになる。	◎				○
Short-term Study Abroad Program in Economics(PHL)	共通選択科目2		1～3	各国経済や経済学を英語で理解できるようになるとともに、海外で英語で授業を受けることによって、英語でプレゼンテーションやディスカッションができるようになる。	◎				○
Short-term Study Abroad Program in Economics(CHN)	共通選択科目2		1～3	各国経済や経済学を中国語で理解できるようになるとともに、海外で中国語で授業を受けることによって、中国語でプレゼンテーションやディスカッションができるようになる。	◎				○
Japanese Economy 1	共通選択科目2		1～4	関連する理論、概念、用語の検討を通して、主要な日本経済の事象を理解できるようになる。	◎	◎			
Japanese Economy 2	共通選択科目2		1～4	関連する理論、概念、用語の検討を通して、主要な日本経済の事象を理解できるようになる。	◎	◎			
Japanese Economic History 1	共通選択科目2		1～4	近世日本史上の経済的事件と現代の日本経済・社会への影響について理解できるようになる。	◎	◎	○		
Japanese Economic History 2	共通選択科目2		1～4	近代以降の日本史上の経済的事件と現代の日本経済・社会への影響について理解できるようになる。	◎	◎	○		
Japanese Management 1	共通選択科目2		1～4	日本企業を含むケーススタディの分析を通して、企業経営の主要な特徴を理解することができる。	◎	○			
Japanese Management 2	共通選択科目2		1～4	日本企業を含むケーススタディの分析を通して、企業経営の主要な特徴を理解することができる。	◎	○			
Economics	共通選択科目2		1～4	主要な経済学の用語、概念、理論を理解し、現代の経済現象を説明できるようになる。	◎	◎	○		
Statistics	共通選択科目2		1～4	統計学の概念と用語を習熟し、統計学の知識を分析手法として適用できるようになる。	◎		○	◎	
Accounting 1	共通選択科目2		2～4	会計学の基礎的な用語、概念、理論を理解し、財務諸表の意味や役割についてわかるようになる。	◎		◎	◎	
Accounting 2	共通選択科目2		2～4	会計学の基礎的な用語、概念、理論を理解し、財務諸表の意味や役割についてわかるようになる。	◎		◎	◎	
Finance 1	共通選択科目2		2～4	時間価値、株式や債券、リスク、資本コストといったファイナンスの基本的な用語・概念を理解し、資本予算、資本構成、配当政策といった企業財務の理論を説明することができる。	◎	○	◎	◎	
Finance 2	共通選択科目2		2～4	時間価値、株式や債券、リスク、資本コストといったファイナンスの基本的な用語・概念を理解し、資本予算、資本構成、配当政策といった企業財務の理論を説明することができる。	◎	○	◎	◎	
Introductory English for Current Economic Issues 1	共通選択科目2		2～4	現代の国内外の経済課題について初級レベルの英語で理解する力をつける。	◎				
Introductory English for Current Economic Issues 2	共通選択科目2		2～4	現代の国内外の経済課題について初級レベルの英語で理解する力をつける。	◎				
Intermediate English for Current Economic Issues 1	共通選択科目2		2～4	現代の国内外の経済課題について中級レベルの英語で理解する力をつける。	◎				
Intermediate English for Current Economic Issues 2	共通選択科目2		2～4	現代の国内外の経済課題について中級レベルの英語で理解する力をつける。	◎				
Economics Applied to Current Issues 1	共通選択科目2		2～4	現代の国内外の経済課題について上級レベルの英語で理解する力をつける。	◎				

経済学部会計ファイナンス学科のカリキュラム					経済学部の学修成果との関連 (◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連)				
科目名	科目区分	主要授業科目	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関するデータ分析・情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
Economics Applied to Current Issues2	共通選択科目2		2～4	現代の国内外の経済課題について上級レベルの英語で理解する力をつける。	◎				
財務会計論1	学科選択科目		2～4	財務会計理論に関する歴史の変遷を理解し、現在の会計の制度的特質を理解し、活用できるようになる。	○	○	◎		
財務会計論2	学科選択科目		2～4	現在の財務会計の具体的論点と問題点を理解し、活用できるようになる。	○	○	◎		
管理会計論1	学科選択科目		2～4	企業で行われる経営管理活動において、会計情報がどのように用いられているのかについて理解し、活用できるようになる。	○	○	◎		
管理会計論2	学科選択科目		2～4	管理会計論1に引き続き、企業で行われる経営管理活動において、会計情報がどのように用いられているのかについて学び、活用できるようになる。	○	○	◎		
原価計算論1	学科選択科目		2～4	原価計算という行為の特質を、「原価計算基準」の歴史に即して理解し、活用できるようになる。	○	○	◎		
原価計算論2	学科選択科目		2～4	戦略的思考の発展と原価概念の広がりについて理解し、活用できるようになる。	○	○	◎		
会計監査論1	学科選択科目		2～4	会計監査の目的、意義、内容等についての基本的知識を修得し、監査が果たす役割の重要性について理解し、分析できるようになる。	○	○	◎		
会計監査論2	学科選択科目		2～4	財務諸表監査の制度や歴史等についての基本的知識を修得し、資本主義経済の中で監査が果たす役割の重要性を理解し、分析できるようになる。	○	○	◎		
租税法1	学科選択科目		2～4	わが国の財政状況および税務行政の沿革を概観したうえで、租税に関する法的なしくみを理解し、活用できるようになる。	○	○	◎		
租税法2	学科選択科目		2～4	所得税法、法人税法を中心にそれぞれの租税に関する法的なしくみを理解し、活用できるようになる。	○	○	◎		
上級簿記1	学科選択科目		3～4	高度な簿記処理を習得し、大規模な株式会社での会計処理を理解できるようにする。				◎	
上級簿記2	学科選択科目		3～4	高度な簿記処理を習得し、大規模な株式会社での会計処理を理解できるようにする。				◎	
国際会計論1	学科選択科目		2～4	会計国際化の背景と必要性、その理論的問題点について理解し、活用できるようになる。	○	○	◎		
国際会計論2	学科選択科目		2～4	会計基準の統一化にかかわる個別具体的な会計問題について理解し、活用できるようになる。	○	○	◎		
会計情報論1	学科選択科目		2～4	利用者としての立場から会計情報を検討し、会計情報に基づく企業価値評価に必要な基礎的手法を活用できるようになる。	○	○	◎		
会計情報論2	学科選択科目		2～4	公表された会計情報を利用して、実際の企業の価値評価をできるようにする。	○	○	◎		
税務会計論	学科選択科目		2～4	法人税法の理論及び計算構造を理解し、活用できるようになる。	○	○	◎		
会計政策論	学科選択科目		2～4	巨大株式会社の会計政策の実態を、会計制度とファイナンスの関係から個別企業に即して実証分析ができるようになる。	○	○	◎		
環境会計論	学科選択科目		3～4	環境会計の成立、現状、今後の展開および企業が実際に行っている環境情報開示の現状について理解し、自分の意見を説明できるようになる。	○	○	◎		
非営利会計論	学科選択科目		3～4	非営利法人の数と規模の拡大を前提に、企業会計と非営利会計との根本的相違を理解し、自分の意見を説明できるようになる。	○	○	◎		

経済学部会計ファイナンス学科のカリキュラム					経済学部の学修成果との関連 (◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連)				
科目名	科目区分	主要授業科目	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関するデータ分析・情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
会計史1	学科選択科目		2～4	現代企業会計の本質を理解し、会計の発展過程を理解し、説明できるようになる。	○	◎			
会計史2	学科選択科目		2～4	現代企業会計の本質を理解し、会計の発展過程を理解し、説明できるようになる。	○	◎			
コーポレートファイナンス1	学科選択科目		2～4	コーポレートファイナンス2とあわせて、企業財務に明るいビジネスマン／ウーマンといえるレベルの知識を身につけ、分析に活用できるようになる。	○	○	◎		
コーポレートファイナンス2	学科選択科目		2～4	コーポレートファイナンス1とあわせて、企業財務に明るいビジネスマン／ウーマンといえるレベルの知識を身につけ分析に活用できるようになる。	○	○	◎		
証券経済論	学科選択科目		2～4	金融・証券の果たす基本的機能(金融仲介、情報生産、リスクの管理・配分、流動性の付与)について理解し、分析できるようになる。	○	○	◎		
証券市場論	学科選択科目		2～4	証券市場をめぐる近年の動きとその意味について、株式市場、証券会社、証券化、投資信託、M&A等の問題を通じて理解し、分析できるようになる。	○	○	◎		
外国為替論	学科選択科目		2～4	外国為替、国際収支、外国為替制度といった国際金融の理論・制度を学ぶことによって、国際金融の様々な動きを理解し、説明できるようになる。	○	○	◎		
国際金融論	学科選択科目		2～4	国際金融の歴史・現状を学ぶことによって、これまでバブルを繰り返してきた世界経済と国際通貨システムの将来について理解し、自分の意見を説明できるようになる。	○	○	◎		
計量経済学1	学科選択科目		2～4	多元回帰法を中心とする計量経済分析法の基礎を習得するとともに、経済データを用いて基礎的な計量分析を行うことができる。	○		△	◎	
計量経済学2	学科選択科目		2～4	相関・回帰分法、時系列分析を中心とする計量経済分析法を学習し、基本的な計量分析を行うことができる。	○		△	◎	
金融工学	学科選択科目		3～4	金融工学の基本的知識・方法論を修得することによって、金融市場の動向や金融商品を理解し、自分の意見を説明できるようになる。	○	○	◎		
ポートフォリオ論	学科選択科目		3～4	モダンポートフォリオ理論の考え方を修得すると同時に、実際の資金運用や、ファンドマネジャーの投資行動を理解し、自分の意見を説明できるようになる。	○	○	◎		
金融機関論	学科選択科目		3～4	日本の金融機関や金融制度に関する基礎知識の修得と、預金取扱金融機関を巡る問題を理解し、自分の意見を説明できるようになる。	○	○	◎		
金融政策論	学科選択科目		3～4	金融政策を運営している日本銀行の目的・機能、金融政策の目標・手段・有効性やそれらを巡る議論を理解し、自分の意見を説明できるようになる。	○	○	◎		
年金経済論	学科選択科目		3～4	公的年金に関する基本的な知識を身につけ、現在の日本の年金制度の特徴や問題点を把握し、これからの年金改革の方向性について理解し、自分の意見を説明できるようになる。	○	○	◎		
保険論	学科選択科目		3～4	保険理論と保険会社の経営問題を理解し、自分の意見を説明できるようになる。	○	○	◎		
金融史	学科選択科目		3～4	日本の金融制度・金融システム・金融政策を歴史的・長期的な視点から理解し、説明できるようになる。	○	◎			
経営史1	学科選択科目		2～4	近代工業の成立から近年に至るまでの企業経営の歴史的変化について理解し、説明できるようになる。	○	◎			
経営史2	学科選択科目		2～4	企業経営の歴史的変化について、日本の事例をを理解し、説明できるようになる。	○	◎			
現代企業論1	学科選択科目		2～4	「企業とは何か」について、経済学の視点から説明できるようになる。	○	○	◎		
現代企業論2	学科選択科目		2～4	現代企業の「直接投資」について、経済学の視点から説明できるようになる。	○	○	◎		

経済学部会計ファイナンス学科のカリキュラム					経済学部の学修成果との関連 (◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連)				
科目名	科目区分	主要授業科目	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関するデータ分析・情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
国際経営論1	学科選択科目		2～4	国際経営学の基礎知識の修得により、学問体系の大まかなイメージを掴み、その存在意義について自分の意見を説明できるようになる。	○	○	◎		
国際経営論2	学科選択科目		2～4	多国籍企業による国際経営戦略について、時系列的にその歴史・理論・ケースを理解し、自分の意見を説明できるようになる。	○	○	◎		
マーケティング論1	学科選択科目		2～4	企業活動におけるマーケティングの役割を理解するとともに、マーケティングの基本的な考え方を理解し、分析できるようになる。	○	○	◎		
マーケティング論2	学科選択科目		2～4	マーケティングの分析用具と現代のマーケティング課題を理解し分析できるようになる。	○	○	◎		
コーポレートガバナンス論1	学科選択科目		2～4	本講義では、現代の企業形態を代表する株式会社制度に焦点を合わせ、その法制上の構造と企業経営の実態を理解し、自分の意見を説明できるようになる。	○	○	◎		
コーポレートガバナンス論2	学科選択科目		2～4	本講義では、グローバル化した市場の中での日本の株式会社の競争的現実を理解し、自分の意見を説明できるようになる。	○	○	◎		
企業法1	学科選択科目		2～4	会社企業の法律学(企業法)を理解し、説明できるようになる。	○	◎			
企業法2	学科選択科目		2～4	「知的財産」の法律について理解し、説明できるようになる。	○	◎			
経済史1	自由選択科目1		1～4 (1,2年次推奨)	経済の歩みをマクロ・ミクロの双方の視点から理解し、歴史に対する複眼的な視点を身につけ、長期的な視野から経済事象を把握・理解する方法を獲得する。	◎	◎	○		
経済史2	自由選択科目1		1～4 (1,2年次推奨)	日本、アジア、ヨーロッパの経済史に関する基礎知識を習得するとともに、各分野の研究の最前線に触れ、経済の歴史の多様な考え方、アプローチの仕方を理解する。	◎	◎	○		
経済学史1	自由選択科目1		1～4	イギリス通商政策についてのエコノミストたちの議論の歴史を通じて、経済学がいかに発展してきたのかを理解し、説明できるようになる。	○	◎			
経済学史2	自由選択科目1		1～4	イギリス通商政策についてのエコノミストたちの議論の歴史を通じて、経済学がいかに発展してきたのかを理解し、説明できるようになる。	○	◎			
経済統計学1	自由選択科目1		3～4	現代日本経済の実態を各種経済統計の体系から分析することができる。	○		△	◎	
経済統計学2	自由選択科目1		3～4	統計調査法と統計解析法の両側面から統計法を理解し、活用することができる。	○		△	◎	
日本経済論1	自由選択科目1		1～4	日本経済の基本的構造や特性を理解し、自分の意見を説明できるようになる。	○	○	◎		
日本経済論2	自由選択科目1		1～4	戦後から今日に至る日本経済の実体面と金融面の動きを理解し、今後の日本経済の進路を考察し、自分の意見を説明できるようになる。	○	○	◎		
国際経済論	自由選択科目1		1～4	貿易・直接投資・間接投資に関する基礎知識を身につけ、国際分業の特徴について自分の意見を説明できるようになる。	○	○	◎		
世界経済論	自由選択科目1		1～4	1980年代後半以降加速したグローバリゼーションについて学び、それがIMF等の国際制度・各国経済・国際分業に与えた影響を理解し、自分の意見を説明できるようになる。	○	○	◎		
日本経済史1	自由選択科目1		2～4	江戸時代から幕末開港期、明治時代に至るまでの日本経済の歩みを概観し、経済現象を歴史的に観察する能力を身につける。	○	◎			
日本経済史2	自由選択科目1		2～4	第一次世界大戦期から高度経済成長期までの日本経済の歩みを概観し、経済現象を歴史的に観察する能力を身につける。	○	◎			
経済政策論1	自由選択科目1		2～4	環境・エネルギー問題が人類共通の緊急課題であることを理解し、分析することができる。	○	○	◎		

経済学部会計ファイナンス学科のカリキュラム					経済学部の学修成果との関連 (◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連)				
科目名	科目区分	主要授業科目	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関するデータ分析・情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
経済政策論2	自由選択科目1		2～4	日本の経済政策について、その現状と課題を、日米欧の国際的な比較をしながら理解し、分析することができる。	○	○	◎		
財政学1	自由選択科目1		2～4	財政の役割、構造及びそれを支える理論、現代財政の問題点等について理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
財政学2	自由選択科目1		2～4	日本における財政制度の特徴、最近の収支状況、直面する課題及び問題点について理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
国際貿易論	自由選択科目1		2～4	国際貿易についての基礎理論とその背景を押さえつつ、国際貿易・システムの現状と課題、解決の道筋を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
国際経済政策論	自由選択科目1		2～4	国際経済政策の現代的課題を国際政治経済学(IPE)アプローチから概観する。諸政策の動向、対立する理論的見解、今後の展望を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
応用社会経済学1	自由選択科目1		3～4	現代経済の仕組みをラディカルに(根本から、すなわち労働というその発生点から)理解し、説明することができる。	○	◎			
応用社会経済学2	自由選択科目1		3～4	現代経済の仕組みをトータルに(システム全体との関連で、具体的には所有というその正当化形態でひとくりにして)理解し、説明することができる。	○	◎			
中級ミクロ経済学	自由選択科目1		3～4	ミクロ経済学の初～中級レベルの内容を理解し、説明できるようになる。	○	◎			
中級マクロ経済学	自由選択科目1		3～4	オーソドックスなマクロ経済学の基礎を理解し、ケインズ経済学と対比しつつ、その成果と課題を説明することができる。	○	◎			
公共経済学1	自由選択科目1		3～4	公共的な課題の解決のために、政府のあり方が問われている。公共部門は、何を、どのように行うべきか、それにより何が期待できるかを理解し、説明することができる。	○	◎			
公共経済学2	自由選択科目1		3～4	公共的な課題の解決のために、政府のあり方が問われている。公共部門は、何を、どのように行うべきか、それにより何が期待できるかを理解し、説明することができる。	○	◎			
数理経済学	自由選択科目1		3～4	経済学の思考方法と数学的論理の血縁関係を前提に、経済学の論理の核心部分を理解し、説明することができる。	○	◎			
社会思想史	自由選択科目1		3～4	古典の文言を通して思想を理解し、その基礎にある人間観を理解し、説明することができる。	○	◎			
現代社会思想	自由選択科目1		3～4	合理主義と理性がもたらした「現代」の諸問題はどう解釈され、どんな解決方法を生んだのか。現代人の常識としてその基本を理解し、説明することができる。	○	◎			
EU経済論	自由選択科目1		3～4	欧州連合(European Union)の基礎である関税同盟の成立からその発展、共通農業政策や共通通商政策とGATT／WTO体制との関係、通貨統合などを理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
地域経済統合論	自由選択科目1		3～4	国際貿易体制において近年極めて顕著になってきた地域経済統合の実態を分析し、WTO体制との関係を探る。EU、NAFTA、各国のFTA等を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
中国経済論	自由選択科目1		3～4	中国経済を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
中国経済政策論	自由選択科目1		3～4	中国経済を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
国際政治経済学	自由選択科目1		3～4	国際経済における政治・経済・規範の関係を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
ヨーロッパ経済史1	自由選択科目1		3～4	中世から19世紀に至るヨーロッパの経済史を学び、近代の資本主義的市場経済が確立するまでの過程をさまざまな観点から理解し説明することができる。	○	◎			
ヨーロッパ経済史2	自由選択科目1		3～4	今日さまざまな問題に直面しているヨーロッパ経済の現状を、19世紀から21世紀に至るまでの歴史的背景から理解し説明することができる。	○	◎			

経済学部会計ファイナンス学科のカリキュラム					経済学部の学修成果との関連 (◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連)				
科目名	科目区分	主要授業科目	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関するデータ分析・情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
アジア経済史1	自由選択科目1		3～4	1960年代から現在に至るNIES、アセアン諸国、中国、インドの経済発展の実相を探り、その中に垣間見える過去との連続性を理解し、説明することができる。	○	◎			
アジア経済史2	自由選択科目1		3～4	現代アジア経済における新しさと古さの共存を理解し、説明することができる。	○	◎			
アメリカ経済史1	自由選択科目1		3～4	アメリカ経済を長期的・歴史的視点から理解し、資本主義の歴史的段階を理解して説明することができる。	○	◎			
アメリカ経済史2	自由選択科目1		3～4	第二次世界大戦後のアメリカ資本主義の歴史的段階を理解し、説明することができる。	○	◎			
産業経済論1	自由選択科目1		3～4	日本の国際競争力に陰りが見えるとはいえ、日本の産業システムは競争力を発揮している。その理由を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
産業経済論2	自由選択科目1		3～4	日本の国際競争力に陰りが見えるとはいえ、日本の産業システムは競争力を発揮している。その理由を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
労働経済論1	自由選択科目1		3～4	日本の雇用の制度と実態を、国際比較に留意しながら明らかにした上で、そこにはらまれている問題点を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
労働経済論2	自由選択科目1		3～4	日本の雇用の制度と実態を、国際比較に留意しながら明らかにした上で、そこにはらまれている問題点を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
環境経済学1	自由選択科目1		3～4	環境経済学の理論と現実と様々な環境問題を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
環境経済学2	自由選択科目1		3～4	環境と経済は密接不可分で、経済のあり方が環境の状況を決定するが、そこに技術が大きく関わっていることを理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
開発経済学	自由選択科目1		3～4	開発経済学の基本的な知識を身につけるとともに、貧困などの社会問題を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
アジア経済論	自由選択科目1		3～4	アジア経済躍進のメカニズムとその問題点を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
アメリカ経済論	自由選択科目1		3～4	アメリカ経済の発展プロセスをふまえた上で、世界に大きな影響を与え続けている現代アメリカ経済の構造とその変化の内実を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
アメリカ経済政策論	自由選択科目1		3～4	アメリカ経済政策は日本を含め各国経済政策に強い影響を及ぼしている。内外に展開するアメリカ経済政策のあり方を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
租税論1	自由選択科目1		2～4	租税理論の視点から現実の租税制度・租税政策を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
租税論2	自由選択科目1		2～4	租税制度・租税政策を国際比較と歴史の視点から理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
地方財政論1	自由選択科目1		2～4	地方財政を制度を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
地方財政論2	自由選択科目1		2～4	現代地方財政改革を政治経済として理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
社会政策論1	自由選択科目1		3～4	社会政策(社会保障)の諸制度・理論を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
社会政策論2	自由選択科目1		3～4	現物給付中心の社会保障制度である健康保険と介護保険を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
農業経済論	自由選択科目1		3～4	農業生産、食料消費の工業製品との違いを理解し、農業・食糧問題を考える上で必要な、経済理論・基礎知識を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		

経済学部会計ファイナンス学科のカリキュラム					経済学部の学修成果との関連 (◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連)				
科目名	科目区分	主要授業科目	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関するデータ分析・情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
農業政策論	自由選択科目1		3～4	現在の日本農業が、どのような政策によってもたらされ、どのような問題点を持っているか、必要な政策は何かを理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
都市政策論1	自由選択科目1		3～4	都市経済学の観点から現代の経済社会において都市が担う役割について学ぶとともに、各種の事例を通じて公共政策分析の基礎を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
都市政策論2	自由選択科目1		3～4	住宅及び土地の市場を中心に、現代の都市を分析する視覚を身に着ける。また、中心市街地活性化や廃棄物問題などの現代の都市問題を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
中小企業論1	自由選択科目1		3～4	圧倒的な多数を占める中小企業がどのように認識され、論じられて来たのかを知り、主体的に経済事象に働きかけられるようになる。	○	○	◎		
中小企業論2	自由選択科目1		3～4	中小企業政策に焦点を当て、産業政策の中に中小企業がどのように位置づけられ、中小企業政策として立案・実行されて来たのかを理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
消費者政策論	自由選択科目1		3～4	消費者政策を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
生活経済論	自由選択科目1		3～4	生活経済学的視点から消費経済政策を捉え、統計数値を用いて現代の消費者が抱えている生活問題を理解し、分析することができる。	○	○	◎		
比較公共政策論1	自由選択科目1		3～4	現在の金融・環境・エネルギー危機を背景に諸先進国の公共部門による対策を比較分析し、制度化されつつある国際的な方策を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
比較公共政策論2	自由選択科目1		3～4	現在の金融・環境・エネルギー危機を背景に諸先進国の公共部門による対策を比較分析し、制度化されつつある国際的な方策を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
社会開発論	自由選択科目1		3～4	社会開発の概念とその変遷、具体的な取り組み等を学びつつ、従来の経済開発との差異を理解し、社会開発の基本的な考え方と主要な課題を理解する。	◎	○	◎		
医療経済論	自由選択科目1		3～4	医療経済学の基本的な考え方を理解し、現在の日本の医療保険制度が抱える課題を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
福祉経済論	自由選択科目1		3～4	この授業では、経済と福祉の関わりを理解すること、社会保険の構造と仕組みを理解すること、社会福祉の類型と福祉財政を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
流通経済論	自由選択科目1		2～4	経済社会における生産と消費のへだたりを克服する流通の役割と、それを担う小売業、卸売業の機能を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
流通政策論	自由選択科目1		2～4	国の流通分野での規制・助成である流通政策の内容と意義、流通産業の今日的課題を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
現代経済論	自由選択科目1		2～4	資本主義が抱える課題と、その解明に向けた経済学の潮流を理解する、現代経済の構造や動向について説明できるようになる。	○	◎	◎		
ゼミナールA	自由選択科目1		2～3	輪読やディベート、グループワークなどに従事することによって、プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートなどのアカデミックスキルズの向上を目指す。	○	◎	◎		○
ゼミナールB	自由選択科目1		4	ゼミナールAで育成されたアカデミック・スキルズのより一層の向上を目指すとともに、卒業論文等の個人研究の充実を図る。	○	◎	◎		○
ゼミナール(単年度)	自由選択科目1		2～4	輪読やディベート、グループワークなどに従事することによって、プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートなどのアカデミックスキルズの向上を目指す。	○	◎	◎		○
現代経済演習1	自由選択科目1		2～4	輪読や討論、グループワークなどを通じて資本主義が抱える課題を理解し、その解明に向けて研究・調査を行うことのできるスキルを身につけることができる。		◎	◎		△
現代経済演習2	自由選択科目1		2～4	輪読や討論、グループワークなどを通じて資本主義が抱える課題を理解し、その解明に向けて研究・調査を行うことのできるスキルを向上させることができる。		◎	◎		△
データサイエンス概論	自由選択科目1		2～4	データサイエンスに関わる基礎的・実践的な知識をもとに、実際にデータに対して適応できるようになる。			○	◎	

経済学部会計ファイナンス学科のカリキュラム					経済学部の学修成果との関連 (◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連)				
科目名	科目区分	主要授業科目	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関するデータ分析・情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
統計調査論1	自由選択科目1		2～4	社会調査の意義・類型・方法などにかかわる基本的な事柄を習得する。			◎	◎	
統計調査論2	自由選択科目1		2～4	社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく方法を実践的な形で修得する。			◎	◎	
調査実習	自由選択科目1		3～4	社会調査に関する基礎を学習すると共に、実際に調査の企画から実施、集計と分析まで行うことで社会調査を体系的に学習する。			◎	◎	
外書講読・独A	自由選択科目1		3～4	簡単な経済用語に慣れ、辞書を使いながら、経済関連書を読めるようになる。	◎				
外書講読・独B	自由選択科目1		3～4	簡単な経済用語に慣れ、辞書を使いながら、経済関連書を読めるようになる。	◎				
外書講読・仏A	自由選択科目1		3～4	簡単な経済用語に慣れ、辞書を使いながら、経済関連書を読めるようになる。	◎				
外書講読・仏B	自由選択科目1		3～4	簡単な経済用語に慣れ、辞書を使いながら、経済関連書を読めるようになる。	◎				
経済地理学1	自由選択科目1		2～4	経済的諸活動の空間構造とその動態を地理学的に理解し、説明することができる。	○	◎			
経済地理学2	自由選択科目1		2～4	経済的諸活動の空間構造とその動態を地理学的に理解し、説明することができる。	○	◎			
課題解決演習A	自由選択科目1		1～4	協力企業による講義やグループディスカッションを通じて、産業の多様性や関係性について学び、社会・経済の全体構造について理解を深めることができる。	○	◎	◎		◎
課題解決演習B	自由選択科目1		2～4	協力企業から提示される課題に取り組みながら、専門科目として学ぶ経済と実社会で起きている問題を結びつけて理解するとともに、職業理解を深めながら、社会人基礎力を高めることを目的とする。	○	◎	◎		◎
課題解決演習C	自由選択科目1		2～4	協力企業から提示される課題に取り組みながら、専門科目として学ぶ経済と実社会で起きている問題を結びつけて理解するとともに、職業理解を深めながら、社会人基礎力を高めることを目的とする。	○	◎	◎		◎
企画講座1	自由選択科目1		2～4	AIの持つ可能性と社会の変化に及ぼす意義・課題を理解し、ディスカッションを通じて新しい生き方や自らの将来を積極的に選択することができるような考え方を身につけることができる。	○	◎	◎		◎
企画講座2	自由選択科目1		2～4	国の財政監督機関である会計検査院が行っている会計検査の役割、その実施方法、報告書の内容などを理解し、国民が納めた税金が適正かつ効率的・効果的に使われているかをチェックすることの重要性について考えることができる。	○	◎	◎		◎
企画講座3	自由選択科目1		2～4	公共政策の財源を調達しつつ、所得・富の再分配を行い、経済の安定化等に資する租税制度及びその運営を支える税理士制度について学び、経済社会における租税の重要性を理解する。	○	◎	◎		◎
企画講座4	自由選択科目1		2～4	会計が、企業を取り巻く利害関係者との間で行われ、人と人との関係が背後に横たわっているという意味ですぐれた社会的な行為であることを理解する。			◎		◎
企画講座5	自由選択科目1		2～4	学生は、実社会の中で理想を描き、自ら問題を発見し解決できるイノベーターとしての基礎的能力を得る。	◎		○		△
企画講座6	自由選択科目1		2～4	学生は、現代社会の諸問題について、アカウンタビリティ(会計報告責任)の観点から検討するための分析視角を身につけることができる。			◎		◎
企画講座7	自由選択科目1		2～4	学生は、金融資産形成の問題に対して、合理的な選択や意思決定に必要な知識および基本的な金融リテラシーを身につけることができる。			◎		◎
インターンシップ	自由選択科目1		3～4	自分自身のキャリアデザインを考え、活用することができる。			◎		◎
キャリアコンサルティング論	自由選択科目1		2～4	生徒・学生に対しては進路・職業指導を自律的に選択できるように援助する能力を習得し、労働者に対しては、職業の選択、職業生活設計または職業能力の開発・向上に関する助言を行うことのできる能力を身につける。			○		◎

経済学部会計ファイナンス学科のカリキュラム					経済学部の学修成果との関連 (◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連)				
科目名	科目区分	主要授業科目	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関するデータ分析・情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
キャリアデザイン論	自由選択科目1		2～4	職業人としての「生き方」を考え、自分でキャリア設計を行うことができる能力を身につける。			○		◎
経済ビッグデータ解析入門	自由選択科目1		2～4	経済物理学と複雑ネットワーク科学の用語や概念を理解して、データ分析の手法を身につける。			◎	◎	
機械学習入門	自由選択科目1		2～4	機械学習の可能性と限界を理解して、機械学習の実装に不可欠なPythonプログラミングの基礎を身につける。			◎	◎	
憲法1	自由選択科目1		1～4	本講義では、近代憲法の基本原理を検討するとともに、日本国憲法の「前文」から「第10章 最高法規」までを概観していくこととする。	○	○			
憲法2	自由選択科目1		1～4	本講義では、近代憲法の基本原理を検討するとともに、日本国憲法の「前文」から「第10章 最高法規」までを概観していくこととする。	○	○			
民法1	自由選択科目1		1～4	実社会における取引や経済生活から生じる契約上のトラブルを防止したり、それを対処するための基本的な法的発想力を身につけ、説明することができる。	○	○			
民法2	自由選択科目1		1～4	実社会における取引や経済生活から生じる契約上のトラブルを防止したり、それを対処するための基本的な法的発想力を身につけ、説明することができる。	○	○			
経済法1	自由選択科目1		3～4	経済法の中心である独占禁止法の基本原理、基本概念、私的独占と集中規制を理解し、説明することができる。	○	○			
経済法2	自由選択科目1		3～4	経済法の中心である独占禁止法の基本原理、基本概念、私的独占と集中規制を理解し、説明することができる。	○	○			
行政学1	自由選択科目1		3～4	主権者(制度論)・消費者(政策論)・納税者(管理論)という3つの視点から行政を理解し、改革の処方箋の当否について考える能力を身につける。		◎	○		
行政学2	自由選択科目1		3～4	主権者(制度論)・消費者(政策論)・納税者(管理論)という3つの視点から行政を理解し、改革の処方箋の当否について考える能力を身につける。		◎	○		
地方自治論	自由選択科目1		3～4	地方自治をを理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
労働法	自由選択科目1		3～4	労働法の基本的な枠組み(法制度・判例)を理解するとともに、それらの背後にある考え方・問題点を理解し、説明することができる。	○	○			
日本史	自由選択科目2		2～4	日本史上の諸テーマについて、通史的に理解を深める。	○	◎	◎		
世界史	自由選択科目2		2～4	世界史上の諸テーマについて、通史的に理解を深める。	○	◎	◎		
政治学	自由選択科目2		2～4	今日の日本政治の構造とダイナミズムを、理論的な枠組みにそって、また比較研究をつうじて理解し、説明することができる。	◎	◎			
地誌学1	自由選択科目2		1～4	具体的な事例に基づいて地域と生活の密接な関係を理解できるようになる。	○	◎	◎		
地誌学2	自由選択科目2		1～4	具体的な事例に基づいて地域と生活の密接な関係を理解できるようになる。	○	◎	◎		
地理学概説1	自由選択科目2		1～4	地理学の基礎を学び、人間の生活の多様性を理解できるようになる。	○	◎	◎		
地理学概説2	自由選択科目2		1～4	地理学の基礎を学び、人間の生活の多様性を理解できるようになる。	○	◎	◎		
自然地理学1	自由選択科目2		2～4	自然地理学の基礎を学び、地球全体の環境を意識できるようになる。	○	◎	◎		

経済学部会計ファイナンス学科のカリキュラム					経済学部 of 学修成果との関連 (◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連)				
科目名	科目区分	主要授業科目	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関するデータ分析・情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
自然地理学2	自由選択科目2		2～4	自然地理学の基礎を学び、地球全体の環境を意識できるようになる。	○	◎	◎		
心理学1	自由選択科目2		1～4	実証科学としての心理学の基本的枠組みのもと、「心」の様々な側面について理解することにより、自分や他者の「心」の働きを考える手がかりを得る。	○	○	○		
心理学2	自由選択科目2		1～4	実証科学としての心理学の基本的枠組みのもと、「心」の様々な側面について理解することにより、自分や他者の「心」の働きを考える手がかりを得る。	○	○	○		
宗教思想1	自由選択科目2		1～4	現在のわれわれの知の枠組みを決定した近代の西欧思想に触れ、その中で宗教の問題がどのような位置にあるかを考えること。	○	○	○		
宗教思想2	自由選択科目2		1～4	受講者が現代の宗教思想に自分で触れ、考えるようになること。	○	○	○		
哲学概論1	自由選択科目2		1～4	西洋哲学に即して哲学的思考について理解し説明することができる。	○	○	○		
哲学概論2	自由選択科目2		1～4	東洋哲学に即して哲学的思考について理解し説明することができる。	○	○	○		